

(道徳)

「協同的な学びの実現を目指して」  
—道徳の副読本を使った指導法—

大阪市立玉出小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、「協同的な学びの実現」として「学び合いの授業」の研究を4年間進めてきた。そして、今年度の学校経営の方針である「基本的生活習慣を身につけさせ、学習規律を確立させ、わかる楽しさとできる喜びを味わわせていく。生き方の土台について教えていく。」を受け、また、来年度からの「特別の教科 道徳」の教科化に向けて、道徳的価値を学びながら、相手の立場や考えを尊重し、多様な考えを認め合ったり、励まし合ったりする、「学び合い」による学習を進め、自分の存在感や有用感など自尊感情を高める研究を進めようと考えた。

## 2. 研究の方向性

- ・ 学校教育全般で行われる「道徳教育」ではなく、来年度から教科化される「道徳科」の研究とする。
- ・ 1時間完結の授業展開を中心とする。
- ・ 道徳的価値についての理解を深めるための、「指導方法」を工夫する。
- ・ 研究授業の際に、参観者も指導者の立場で参観し、児童の発言や行動などを観察しエピソード評価を行う。
- ・ 道徳科の学習における協同的な学びが実現するための「学び合い」の場を工夫して設定する。

## 3. 研究の視点

### 視点① 道徳的価値についての理解を深める学習活動になっているか

- 学年段階ごとに示されている道徳科の内容項目をもとに、教材文に適した、1時間で到達できるねらいを設定する。
- ねらいに迫ることができる中心発問を設定する。
- エピソード評価・アンケートでの評価・ポートフォリオでの評価等により、児童の学習状況や成長の様子を評価する。

### 視点② 楽しく考える・わかる授業づくりの工夫

- 授業展開…「導入」「展開」「終末」の3つの段階の基本的な流れに沿った授業を展開する。
- 教材提示の工夫…教材文の内容を読み取る時間をなるべく省き、効率よく児童に理解させるために、教材文の世界に深く入り込み、ポイントとなる場面を正しく把握をさせる工夫をする。
- 板書の工夫…学習の流れに沿って、児童の思考が、視覚的にわかるように整理する。大事な場面の挿絵や重要な文の短冊を貼り強調する。中心人物の心の変化や、葛藤がわかるように示す。
- 学び合いの工夫…ペアやグループ活動を通して、学びに向かうエネルギーを得ながら、

よりよい道徳的価値を見つけていく活動となるように工夫する。

- ・考えるヒントを得る話し合い
- ・多様な意見を認め合う・別の見方を理解する話し合い
- ・問題解決のために協力しなければならない話し合い

- 発問の工夫…中心発問に対して、話し合いを深め、ねらいの中心に迫るための補助発問を工夫する。また、実生活でありそうなことを投げかける「振り返りの発問」は、読み物教材を生活と結びつけるために必要である。
- 表現の工夫…書く活動では、必要な時間を確保し、じっくり考えられるようにする。言葉だけでなく、役割演技をしたり、動作化をしたりする方法、気持ちを心のメーター、表情絵などを使って表す方法も取り入れる。

#### 4. 研究の成果と今後の課題

##### (1) 研究の成果

- 内容項目についての児童の実態把握は、どのような発問が必要かなど授業展開を考える上で必要であると分かった。
- 中心発問を1つにしぼりこみ、補助発問を用意することで、その課題についてじっくり考えさせ、ワークシートに書き込んだり、話し合ったりする時間を十分にとることができた。
- 児童の実態に応じた教材提示の仕方の工夫は、教材文への抵抗感をなくし、どの子にも授業に参加しようとする意欲を持たせることができた。教材文の世界に引き込むことができれば、児童は、その登場人物と自分を重ね合わせて考えることができた。
- ペアやグループでの話し合いの目的をはっきりさせることにより、学び合いの良さが生かされた。
- 板書による視覚的支援は、児童の理解や思考を助けた。

##### (2) 今後の課題

- ねらいの設定は、児童の実態に合った、さらに具体的なものにしていく。
- 授業を組み立てる上で、導入-展開-終末にきちんと役割をもたせ、自分を振り返り、考えることができる授業展開をしていく。
- 議論を活性化させる工夫をする。

#### 5. 研究討議会（指導講評）

- 補助発問が工夫されていた。中心人物の気持ちを追うだけでは道徳的価値の獲得には至らない。その行為の裏付けを聞いていくことで道徳的価値の大切さに気付かせる。いろいろな視点を変えて考えさせる補助発問は大切である。
- 道徳での問題解決学習の仕方を示していた。主体的に解決するための資質を養うために、どんな行動をとればよいかを話し合う授業展開が有効的に実践されていた。
- 1時間で達成できるめあてを設定できていた。授業を通して、改めてわかったことや気づいたことの変容を指導者がキャッチして道徳的価値への理解を深めたことなどのプラス面を評価に生かしていくと良い。